

前奏

鈴木義兄

賛美歌7番

主のみいつとみさかえとを こえのかぎりたたえて
またき愛と低きころ 御座にそなえひれふす

ゆだねまつるわが重荷を 主はかわりて負いたもう
なやみおおき世の旅路も 主のいませばやすけし

よろこびもて御前にいでん まずしき身のささぐる
愛とまこと主はよみして みくらちかく召したもう

闇をかえて光となす なぐさめぬしとうとし
のぞみはわき恐れは消え み民のさちつきせじ

聖書拝読 使徒行伝3章1-10節

説教

“解放の喜び”

Scroggins 由紀牧師

後奏

鈴木義兄

“主を誇ることについて” (Boasting in the Lord)

“それは、誇る者は主を誇れ、と書いてある通りである。” (コリント人への手紙1章31節)

5月、6月は卒業の季節ですね。初夏という季節は緑が美しく、心躍る季節ですが、そのような季節に家族や友人たちと、卒業を祝えるのはすばらしいことです。自分のお子さんやお孫さんが卒業するというのは、とても誇らしい気持ちになるでしょう。努力した本人を誉めたり、誇りに思うのはもちろん、問題はありませんが、そのような時に忘れてはならぬのは、主の恵みに対する感謝です。私が教会に通うようになり、クリスチャンの家庭を多く見ると、発見したのは、お互いに相手を尊重し、誇りに思っている、家族の中で主への感謝がいつもあるということでした。誇り高ぶったり、家族自慢にならないのはそのためです。

コリント人への第一の手紙1章において、パウロは神がなきに等しいものをあえて選ばれる、それはどんな人間でも神のみまえて誇る事が出来ないためであると言っています。誇る、という日本語は英訳ではBoastと書かれていますが、この意味は自慢する、誇り高ぶる、というニュアンスがあります。パウロは主の御前で人間たちがお互いに自慢しあったり、誇りあうのは無意味であるといっているのです。人間的な誇りは党派心を生み、気を付けないと争いの原因になります。戦争を考えてみても、人間の中にあるゆがんだ誇り、党派心が原因であるのは間違いないでしょう。

しかし、すべての物の創造主である方を誇るとき、そこには平和が生まれ、お互いを兄弟姉妹とみることが出来ます。私たちは主を誇り、そのご慈愛に感謝できます様に。

、
(Yuki Scroggin)

消息

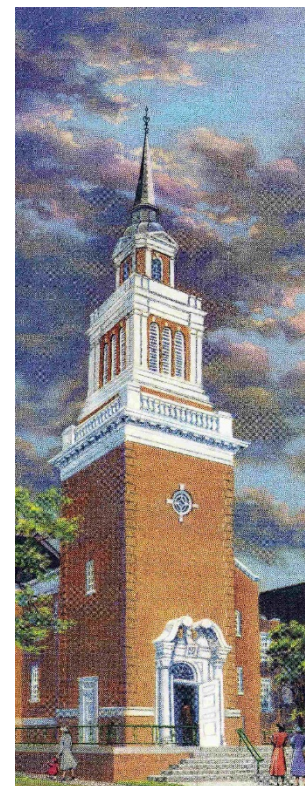
—教会の内外で主の癒しを必要とされている方々のために、また、世界におけるパンデミックが一日も早く終息に導かれるように、またウクライナに平和がもたらされるように祈りましょう。

お知らせ

—ウクライナの危機に関して、International Ministries では支援を行っております。興味のある方は下記のリンクを通して寄付をしてください。支援金は、ウクライナのパプテスト教会へ送られます。

<https://www.internationalministries.org>

—アメリカでは、パンデミック以来、アジア系住民への差別偏見が問題になっていますが、アジア系であるということで、嫌がらせなどの被害を受けた方は、Stop AAPI Hate のサイトで被害を報告することができます。また、政治的な活動については、AAAJ (Asian American Advancing Justice) などのサイトをチェックされることをお勧めいたします。



週報

第3876号
2022年6月12日

ノースショア パプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Language Group

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Phone: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

発行: 2022年6月8日—スショアパプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)
電話: 773-728-4200